

JUN通信

発行：日本共産党吉野川市議団



高木 純

台風15号で大きな被害

市内の被害状況(道路の損壊、河川は護岸などの損壊)

	道路	河川	農地	林道	農道	合計
鴨島	12	0	1	0	2	15
川島	6	2	3	0	0	11
山川	6	1	2	0	0	9
美郷	15	1	0	4	0	20
合計	39	4	6	4	2	55



市内各所で浸水被害
川島中学校前の道路も冠水

河川の氾濫で床上浸水も

	床上浸水	床下浸水	合計
鴨島	16軒	171軒	187軒
川島	12軒	26軒	38軒
山川	17軒	21軒	38軒
合計	45軒	218軒	263軒

豪雨対策急がないと...

九月十九日から二十一日にかけて台風一五号による大雨で、市内で浸水被害や道路災害、住宅造成地の斜面の崩壊の被害がでました。

市がまとめた被害状況は、床上・床下浸水が美郷を除く市内全域で二四九軒(九月二十八日のまとめ。町村別は上右の表)

市内全域での災害状況は、市道の損壊が市内全域で三九カ所で、河川や農地なども被害がありました。(九月二十八日のまとめ。町村別は上左の表)

また、川島町では住宅造成地の斜面が二カ所崩れかかっており、今なお危険な状態です。このため市は対策を急いでいます。

台風一五号により市内で降った雨は、鴨島町飯尾東で五一ミリに達しました。この降水量は市の年間降水量の三分の一に達すると見込まれます。

国交省が設置した雨量計による、地域別の雨量は下の表の通りです。

各地域とも記録的な雨になりましたが、吉野川市では一昨年八月のゲリラ豪雨により、わずかに二十四時間で約六〇〇ミリの雨が降り大きな被害をもたらしました。

また平成一七年の台風二三号による豪雨でも大きな被害が出ました。

ここ数年、記録的な豪雨が相次いでいます。今後、市の防災対策として『豪雨』も警戒が必要です。

記録的な豪雨が何度も



善入寺も田畑が冠水

9月19日15時より~21日10時までの累計降水量と1時間あたりの最大雨量

	山川山崎南	美郷東山峠	川島町桑村	鴨島飯尾東	美郷 平
累計雨量	291mm	418mm	363mm	511mm	356mm
最大雨量	34mm	38mm	36mm	55mm	45mm

ミストシャワーで熱中症対策

今年の夏も猛暑となり、学校での熱中症が社会問題となつています。吉野川市議会でも、ほとんどの議員が市の小中学校にエアコンの設置を求めています。市は財政上の問題を理由にして実現には至っていません。

教室など屋内はエアコン設置が必要ですが、屋外では今ミストシャワーの導入が全国で広がっています。ミストシャワーとは細かな霧を散布して気化熱で回りの空気を冷やすもので、非常に安価で手軽に設置できます。

共産党議員団は来年の夏、子供を熱中症から守るために、屋外の要所にミストシャワーの設置を考えてはどうかと提案しました。市は検討したいとのことでした。

市の奨学金制度 申し込みが少なくて予算余った!?

もっと市民に知らせる努力をすべきでは

市が行っている奨学金制度が、申し込み者が少ないため予算が余ってしまいました。(218万4千円)

不況で教育費に四苦八苦ししている方が多くいるはずです。子供を持つ市民への知らせ方は充分だったのでしょうか?

市が行っている「奨学金貸与制度」は、家庭の経済的理由のため、高校・大学への進学が困難な方に対して奨学金を貸与するもので、一定の要件を満たせば、高校で県立高校の授業料に相当する金額(5650円)、国公立大学で二万円、私立大学で二万五千円が(全て月額)が貸し与えられます。

市は、今年度の当初予算で私立大学五名分、国公立大学五名分、高校三名分の予算を計上していましたが、申し込まれたのは大学生三名分だけでした。

市は、「奨学金貸与制度」のお知らせを、市のHPに載せていますが、広報「よしのがわ」では年に一度しか掲載していません。また、学校を通じてお知らせすれば、子供がいる家庭に確実に届きますが、市はこれをしていませんでした。市の制度を知らないまま、経済的事情で進学をあきらめた子供がいないとは限りません。

原発撤退し自然エネルギーへの転換を

書一致 意見全会 で可決

原発から撤退し、自然エネルギーに転換を国に求める意見書が全国の自治体で広がっています。本市でも、9月議会に提案された意見書には、正副議長を除く全議員が賛成署名に名を連ねました。

原子力発電からの撤退と自然エネルギー 利用の促進を求める意見書

福島第一原子力発電所の事故は、原子力発電所の危険性の事実を国民の前に明らかにしました。

現在の原子力発電技術は、本質的に未完成で極めて危険なものです。また、原子力発電所は莫大な放射性物質を抱えています。また、どのような事態が起きても放射性物質を閉じ込めておく完全な技術は、現時点では存在していません。そして一度大量の放射性物質が放出されれば被害は広範囲に及び、将来にわたって深刻な影響を及ぼすことになります。

また、莫大な放射性物質を含んだ使用済み核燃料を安全に処理する技術も未だ確立されておらず、すでに全国で1万トンを超える使用済み核燃料が貯蔵されています。

そのような原子力発電所を、世界でも有数の地震国である我が国に集中的に建設することは、危険きわまりないことであります。

よって吉野川市議会は、政府に対し、今こそ原子力発電からの撤退を決断し、自然エネルギー利用の促進に本格的に取り組むよう強く求めるものです。以上、地方自治法99条の規定により意見書を提出します。

2011年9月26日 吉野川市議会

提出先	内閣総理大臣	野田佳彦殿
	衆議院議長	横道孝弘殿
	参議院議長	西岡武夫殿

江川湧水池周辺を公園に



冷たく思わず片足をあげる子ども
一夏の江川湧水池

吉野川遊園地が閉園になり、その跡地に麻植協同病院が移転することになりました。ところが湧水池の管理は「水面」だけ市が行うといいますが、こんなことで大丈夫でしょうか。県の天然記念物になっている江川湧水池をいつまでも残したいものです